

● 所在地



仙台駅からのアクセス



仙台市営地下鉄 東西線「川内駅」下車
「仙台駅」～「川内駅」[乗車時間:約6分]



仙台市営バス 「川内駅前」下車
【15番のりば】739・S839系統「広瀬通経由 交通公園循環」、
730系統「広瀬通経由 交通公園・川内営業所行き」
「仙台駅15番のりば」～「川内駅前」[所要時間:約13分]

東北大学 高度教養教育・学生支援機構

運営サポート室

〒980-8576 仙台市青葉区川内41 川北合同研究棟201

TEL 022-795-7551

FAX 022-795-7647

E-mail ieheoffice@ihe.tohoku.ac.jp

WEB <http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>



東北大学 高度教養教育・学生支援機構 Institute for Excellence in Higher Education 2020



About Institute for Excellence in Higher Education

Organization

組織について

高度教養教育・学生支援機構は、2014年に6つの組織（高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センター）の統合によって設置されました。本機構は、高度教養教育と学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、実施を一体的に行う革新的でチャレンジングな組織として創設され、現在、11の業務センターから構成されています。

Mission

ミッション

研究第一・門戸開放・実学尊重という東北大学の使命に従い、平和で公正な社会の実現を先導するリーダーを育成する教養教育の構築と、多様な学生の学修と生活に必要な学生支援の実現を目指します。そのための高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画と提言、それらの方法の開発と実施を関係部局や審議会の連携のもとに一体的に行います。

Vision

ビジョン

1. 未来社会を先導する挑戦心と創造力を育む高度教養教育と学修支援の展開
2. ワールドクラスの研究総合大学にふさわしい最先端の包括的グローバル教育を全学一体で推進
3. アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を確保するための持続可能な新たなアドミッションの構築
4. 21世紀の知識集約型社会に対応した大学教育開発の推進と教育・学習マネジメントの強化支援
5. 多様性を尊重し自己・社会の未来構想に挑戦する主体的学生を育成する包括的学生支援の推進

Activities

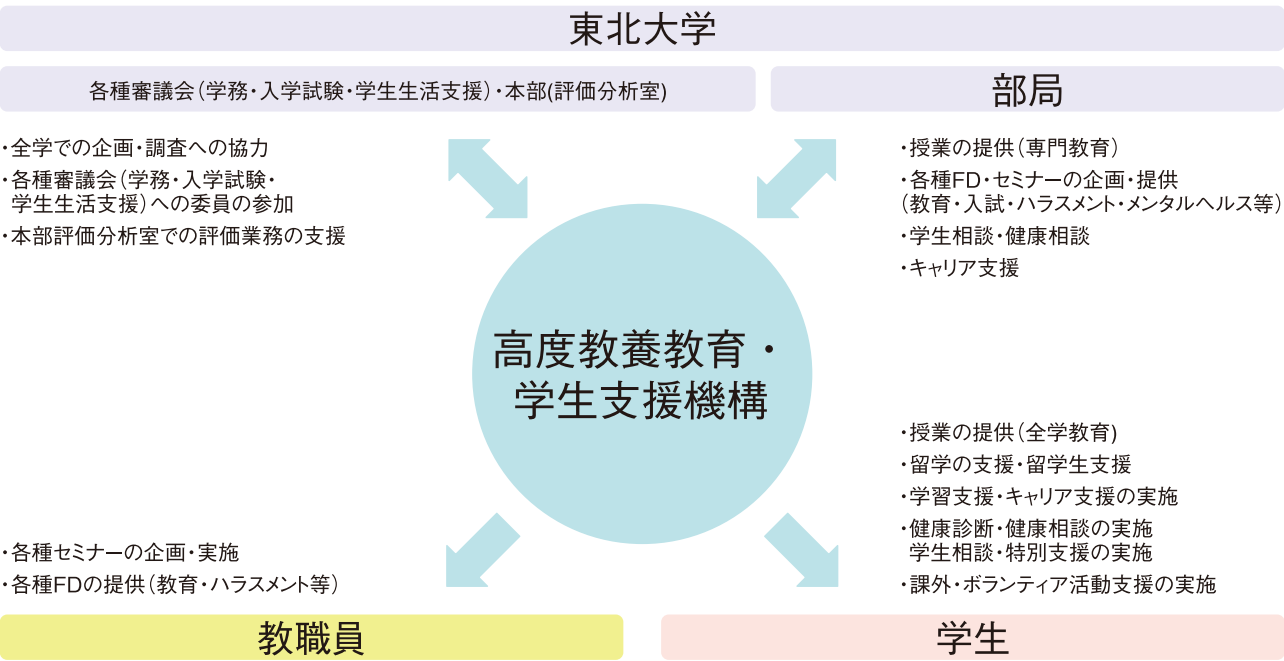
活動内容

- ・教養教育（全学教育）の開発と推進
- ・グローバル教育の推進
- ・高大接続と入試の構築
- ・高等教育の研究と開発
- ・学生支援の推進

組織のつくり

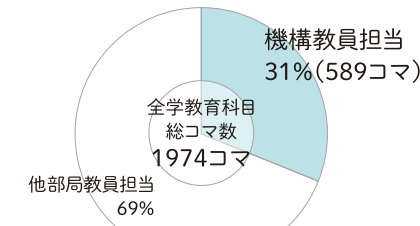


連携のしくみ



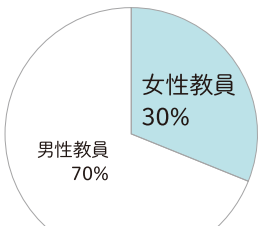
数字で見る機構（令和元年度／2019年度）

全学教育科目担当コマ数



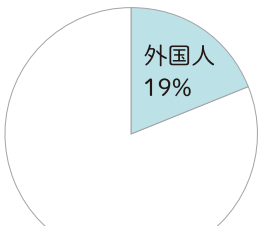
全学教育の授業の約30%を担当しています

女性教員比率



全学で1位の比率となっています

外国人教員比率



全学平均の約3倍、多国籍の教員で構成されています





日本を代表する人材を育て
世界へ羽ばたかせるために

滝澤 博胤

Message from Director

本機構は、2014年に高度教養教育と学生支援に関わる6つの組織を統合し、連携による協働効果を効率的に発揮させる組織として設立されました。掲げるミッションは、未来を先導するリーダーを育成する教養教育の構築、そして多様な学生の学修と生活に必要な学生支援の実現です。発足して6年が経過し、本学への貢献や一定の評価は自認しているところですが、多角的な業務であるがゆえ、本機構に鮮やかなカラーや強い個性があるとは言えません。7年目を迎えるにあたり新たにビジョンを設定し、機能を強化することとなりました。

注力するのは全学教育の質的向上です。本学の学生には、誰かによって作られた道を歩く人ではなく、新しい道を切り拓き世界を先導できる人材になってもらいたいと思います。誰も歩いたことのない所に道を作り、頂上の見えない山に登るために必要となるものは何でしょう。自らの力を発揮するために必要なもの、それは素養です。素養とは自ら育んだ知識や技能のことです。素養を身に付け磨くためには、まず、学びの意味や心構えについて考えて欲しいと思います。答えを見つけるための合理的で効率的な方法を身に付けるだけでなく、簡単に答えが出ないことに対しても自ら進んで問い探究することで、物事の本質を見極めてほしい。勉強と学問の違いを知って欲しいのです。

本学出身の私は、まもなく40年の月日を東北大で過ごすことになりました。人生の中心を本学で過ごして参りました。キャンパスの緑を見ていると、萌え、芽生え、隆盛、伸長、完熟と変化する樹木の一年の様相が学生生活を象徴しているように見え、または人の人生を表しているような気もして頬が緩みます。土壌が整わなくては芽生えや隆盛はあり得ません。学生の成長と同じように本機構も部局や関係機関との連携や協力をさらに密にし、本学の発展に努めてまいります。

滝澤 博胤 | TAKIZAWA Hirotsugu
高度教養教育・学生支援機構 機構長

新潟県生まれ、秋田県育ち。本学出身で工学部にて教鞭を執る。1年間の留学期間をのぞき仙台に在住。「素材の変化が化学に通じる」と料理を趣味として、休日は家族へ手料理を振る舞い、お弁当作りも担当。通勤の道すがら季節の移ろいや街の空気を感じられる街歩きを楽しんでいる。
1985年本学工学部応用化学科卒業、1990年本学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程修了。工学博士。専門は、無機材料および物性。2015年より東北大学理事・副学長（教育・学生支援担当）を務める。前工学研究科長・前工学部長。2018年より現職。

Interview #1

About

教育

シルバ・セシリア | SILVA Cecilia
言語・文化教育センター 准教授

アルゼンチン出身。コルドバ大学卒業後、大阪大学にて人間科学を研究しながら日本語を習得。2003年より現職に就き、スペイン語教育および外国語教育における文化を取り入れた新教材の開発を行う。緑が多く徒歩でも移動しやすいコンパクトな仙台の街を気に入っており、休日は鳴子など近郊の温泉でリラックスタイムを過ごす。

私はアルゼンチンのコルドバで生まれ、コルドバ国立大学で社会コミュニケーション学と英語教育・翻訳の学位を取得しました。その後、来日し大阪大学大学院で人間科学の博士課程を修了、2003年から東北大学の高等教育研究センターに所属しました。学生のキャリア選択や大学院研究に有用な外国語授業の開発を行っています。

私の授業では文化的な側面を取り入れることを意識しています。担当するスペイン語は20か国以上で話され、国によってアクセントや言葉の使い方が異なるため、授業ではさまざまなアクセントの動画サンプルを提示し実際の違いを知ってもらいます。また、1年間続く授業の最初と中盤、最後の3回、学生がスペイン語を話すビデオクリップを撮影しポートフォリオを作ります。これは学生が自身の達成度や成熟度を客観的に確認し、自分自身の言語学習の進化を知るためです。これを自己評価ツールとし、単位や他者の評価ではなく、言語を習得したいという純粋な学びの動機づけとなることを期待しています。ほかにも客観的評価のためのスペイン語検定試験の導入や、FLスペインプログラム（短期海外研修）を実施しています。FLプログラムは現地でのフィールドワークやワークショップ、プレゼンテーションを組み込むことによってより実践的で経験値を高めるプログラムとなっています。

今や手軽な翻訳デバイスが身近にあり、外国語を習得しようとする意思や熱意が湧きにくいのが外国語教育の課題であり現実です。教育者は教え方を変える必要があり、デバイスを活用しながらコミュニケーションを介在させることによって、これまでにない効果を生み出すことができるのではないのでしょうか。デバイスと人と文化をうまく組み合わせ、学生が自発的に学びきっかけを作りたいと考えています。

翻訳デバイスが当たり前の時代に
外国語教育の未来を見据えて



Interview #2

About

研究

倉元 直樹 | KURAMOTO Naoki
入試センター副センター長 教授／大学院教育学研究科兼務

北海道出身。東京大学大学院教育学研究科第1種博士課程単位取得満期退学。博士(教育学)。大学入試センター研究開発部助手を経て、1999年のアドミッション・センター設立時より現職。本学のアドミッション・ポリシー策定、AO入試導入の中核を担う。専門は教育心理学(教育測定論、大学入試)。川辺に群れる鳥や瑞々しく輝く田んぼ等、身近な自然を楽しんでいる。

私は文部省大学入試センター(現在の独立行政法人大学入試センター)研究開発部を経て、1999年から東北大学のアドミッションセンター(現在の入試センター)で入学試験や広報の研究開発や設計を行っています。専門は教育心理学(教育測定論)、研究テーマは大学入試です。

入試センターの役割は、東北大学の入試の設計です。高校現場の声を拾い、先の状況を予測しながら戦略を立てます。本センターは充実した研究機能を備え、成果を本学の入試に反映してきたことが特徴です。赴任した21年前から各学部との信頼関係を構築し、協力しながら入試広報と入試を続けてきました。平成12年度に国立大学初のAO入試を導入、徐々に全学部に行き渡った背景には本学の入試に関わる諸研究があります。「第1志望の受験生のための学力重視のAO入試」というコンセプトが功を奏し、研究大学のアドミッション・ポリシーに相応しい学生が入学しています。大学のKPIである全募集人員に占める「AO入試比率30%」の目標も達成できました。入試を機能させるには広報も重要です。本学はオープンキャンパス(OC)が大きな特色です。充実したOCを中心とした情報提供が「第1志望の受験生」を形成する上で大きな役割を果たします。広報にも研究機能と学部との協力関係は欠かせません。学部の理解を得るため、さまざまな研究成果を提供しています。

令和3年度の入試から始まる入試改革への対応は、高校や一般社会から好意的に受け止められました。2年以上前からワーキンググループを発足させ、各学部と状況を共有して正確な判断を積み上げてきた成果です。これも、背景には大学入試を取り巻く状況を長年分析してきたことが役立っています。

研究基盤の構築のための科学研究費獲得も重要です。現在、2つの大型プロジェクトを運営しています。他大学の共同研究者とともに幅広い高大接続研究を進めていますので、HP(<http://www.adrec.ihe.tohoku.ac.jp/>
<http://adchan.ihe.tohoku.ac.jp/>)をご覧ください。

研究に基づく
戦略的な入試設計で全国を先導
学部との密接な協力関係の構築、
背景に入試研究

Interview #3

About

管理運営

杉本 和弘 | SUGIMOTO Kazuhiro
教育評価分析センター長 教授／大学教育支援センター兼務

三重県出身。名古屋大学教育学部卒業後、日本語教師として外国人向けに教鞭を執るも、大学院へ戻り学び直しを選択。高等教育研究を専門とし同大学院教育学研究科博士課程後期課程単位取得退学。1999年日本学術振興会特別研究員(PD)や、広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員などを経て2011年より現職。専門は、比較教育学・高等教育論。博士(教育学)。

私は広島大学高等教育研究開発センター、鹿児島大学教育センターを経て、本機構の前身である東北大学高等教育開発推進センターに着任し、大学教職員のための新しいプログラムの開発や運営を担ってきました。2011年4月に着任したのですが、震災直後で混乱しており大学も機能を制限していたために当時はイレギュラーなことばかりで、赴任から数ヶ月間の記憶が今も断片的です。

現在センター長を務める教育評価分析センター(CIR)では、インスティテューショナル・リサーチ(IR)を展開し、学内の各種データを収集分析して意味ある情報に変換し、大学運営に関わる意思決定や教育研究の活動を支援しています。大学を取り巻く環境が急速に変化する中、できるかぎりエビデンスを明示し、それらに関係組織と共有しながらさまざまな取り組みを進めていくことを支援する立場です。しかしながら、単に統計データを提示し各学部に変化や対策を迫るようなことには慎重です。本学の部局は独立性が高いので、歴史的背景や学問分野の特徴に配慮しつつ、学内に有機的な繋がりを広げていく作業が重要だと感じています。私たちの立場はややもすると意思決定側の一部に見えるかもしれませんが、コミュニケーションをとりながら部局へ丁寧に思いを伝えたり、逆にいただいた意見の意味や意図を解釈したりしながら関係性を構築しているところです。私たちのミッションは、本学で学んでよかったと思える学生を一人でも増やし、自分で歩む力を培える場づくりです。

私は本機構の大学教育支援センターの業務も兼務しています。大学変革リーダー育成プログラムなどの開発運営を通して、教員自身も時代や環境に合った変化や成長が必要だと強く感じますし、それを支援できる立場でありたいと考えています。

学生、教員、大学が成長し
新しい未来を力強く歩むために

vision

1

未来社会を先導する挑戦心と創造力を育む 高度教養教育と学修支援の展開

学生一人ひとりの学修状況、能力や個性、その他の条件に応じて最適化された教育の実現に向けて、学生の挑戦と創造を支える学修支援体制を整備し、既存の学問領域や学年にとらわれない学際的・総合的な学修を可能とする柔軟な教育カリキュラムを開発・推進します。

- ① 円滑な高大接続と「学びの転換」を実現する効果的な初年次教育の充実強化
- ② SLAサポート事業をはじめとするピアサポート学習支援体制の構築拡充
- ③ 学生の授業時間外学習活動を質と量の両面から充実させるための調査研究や企画実施の推進
- ④ 高年次教養教育や学際研究を通じた学習機会の提供
- ⑤ アスリート、芸術家、職人などの多様な実践知の導入
- ⑥ 各学部・研究科・研究所・審議会等との連携を強化し、「現代的リベラルアーツ」を育成する実践的な教育プログラムを研究開発

以上の取り組みを通して、専門教育課程の基盤となる基礎的な教養教育から、学際融合による教育及び研究を発展させる高度教養教育までを含む総合的な教養教育を推進します。



2019年12月17日 SLAの活動風景(学習支援センター)。1対1の相談対応、イベント開催、学習情報発信などを行っている。

▼ vision1を担う2つのセンターと1つの院



中村 教博 | NAKAMURA Norihiro
学際融合教育推進センター センター長 教授

学際融合教育推進センター

学際融合教育推進センターでは、学士課程教育、大学院教育の発展のための提言や分野を越えた学際融合型教育の開発と実施、初年次教育と高年次教養教育科目の開発と実施を行っています。私は、主に全学教育カリキュラムの構築に向けて、改革タスクフォースのメンバーとして、伝統的な教養教育と現代的な素養を融合し、初年次学生から大学院生までの誰もがいつでも必要な科目を履修できる“開かれた全学教育”の構築に向けた提言を行っています。複雑な人間社会の課題を乗り込めるためにはさまざまな分野の知識が必要です。学生が分野を越えて学べるようになるためには、さまざまな専門分野の教員と学生をつなぐことが重要ですが、大学院教育と比べて学士課程教育では他分野の人が交錯する総合大学の強みが生かされていません。そこで私たちは、「であう」「ひろげる」「つながる」をキーワードに、人と人、興味と学問をつなげるためのサポート活動を進めています。

ユニークな人材を輩出するための
出会いを広げるさまざまな取り組み

水野 健作 | MIZUNO Kensaku
教養教育院 総長特命教授

教養教育院

教養教育院は、教養教育の充実を目的として平成20年に設置された組織です。総長特命教授とは、研究の真髓と面白さを伝えるなど、学生の学習意欲を高め研究大学にふさわしい魅力的な教養教育を創出する教員として、総長より任ぜられた教員のことです。文学、理学、農学、生命科学など多様な研究科の出身者で構成されており、全学の教養教育を広く担当しているほか、特別セミナーや合同講義などを開催しています。私も全学の教養教育に携わり、基礎ゼミや展開ゼミのほか、基幹科目「生命と自然」では、「エッセンシャル現代生命科学」と題し、進展著しい生命科学という学問領域の面白さと重要性を伝え、現代社会を生きる上で必要な教養としての生命科学の基礎を教えています。教養教育院は教育と研究の経験豊富な人材が多く、分野も多彩です。高年次学生に対する教養教育や分野横断的な教養教育など、教養教育改革における先導的な役割を果たしていければ、と思います。

全ての基盤となる揺るぎない教養を
身につけることが求められる時代に



佐藤 智子 | SATO Tomoko
学習支援センター 副センター長 准教授

学習支援センター

学習支援センターは、全学部の学生を対象として、全学教育課程における学修や、授業外での自主的・学際的な学習をサポートする組織です。サポートを担うのは、「SLA(Student Learning Adviser)」と呼ばれる学生たち。初年次段階から能動的な学習への「学びの転換」を促すべく、学生同士の「学び合い」の力を活かし、幅広い活動を行っています。個別相談対応やワークショップ開催により、理系科目、アカデミック・ライティング、英会話等の学習をサポートしています。特に近年は、ポスター掲示やWebを利用した積極的な学習情報発信、哲学カフェのような対話力や思考力を育むイベントの企画・開発、日本語学習を中心に留学生の学習支援にも力を入れています。学生の中には、大学での学修に戸惑いや不安を感じながらも、どうしていいかわからない場合もあるかもしれません。そんな学生が自律的・主体的な学習者になれるよう、学習支援センターがさまざまな方法で学習をサポートします。

学生同士の「学び合い」を促し
主体的・対話的で深い学習へと転換



大学生活における疑問や悩みの案内サイト「カワウチタクシー」
見知らぬ土地で頼りになる「タクシー」のように、学生を「目的知」(求めている情報や担当部署)まで案内します。

vision

2

ワールドクラスの研究総合大学にふさわしい 最先端の包括的グローバル教育を全学一体で推進

21世紀型地球市民を育成する包括的グローバル教育として、以下の事業を展開します。

- ① 国内外の優秀な学生を惹きつける国際的な教育プログラムの開発・整備
- ② 希望する全ての学生に多彩な海外研鑽の機会・支援を提供
- ③ 留学促進のための調査・分析とプログラム改善を連動した理論・実践循環体制を確立
- ④ 抜本的な語学教育改革とともに全ての教育課程に国際的な視点を取り入れる「カリキュラムの国際化」を推進
- ⑤ 語学教育、国際教育、教養・専門教育を融合した包括的なグローバル教育と多様な文化背景の学生による協働・相互研鑽を取り入れた「国際共修」の推進
- ⑥ 国際教育のシンクタンクとして我が国における国際共修の推進を先導する中核拠点を形成し、教職員研修やアーカイブの構築による普及活動の実施



2019年12月17日 外国人留学生と国内学生が共に伝統文化について学ぶ国際共修授業の様子

▼ vision2を担う2つのセンター

末松 和子 | SUEMATSU Kazuko
グローバルラーニングセンター 副センター長 教授

グローバルラーニングセンター

グローバルラーニングセンターでは、海外留学、語学学習、国際教育交流、国際学士コース、外国人留学生の受け入れ・教育・支援に関する多様なプログラム、活動、イベント(説明会、セミナー、講演会、式典等)の企画および実施を16人の教員が協力して行っています。活動が多岐にわたり、また、それぞれの教員のバックグラウンドも多様ですが、「学生に最適な教育・支援を提供するためには何が必要か」を常に追求し、アイデアを出し合い実行しています。「東北大学ビジョン2030」や「国際戦略」に沿った派遣留学・留学生の受け入れ拡大を後押しする事業の実施のみならず、本学の国際化、教育におけるグローバル化を牽引し、シンクタンクとしての役割を果たすことで、部局や学内外の関連機関・部署にも貢献したいと思っています。国内学生と留学生に、「選んでよかった」と思ってもらえるような教育機会の提供と、きめ細やかな支援を継続して実施できる、活力にあふれたセンターを目指しています。

教育のグローバル化を推進する
シンクタンクとしての役割を担う



スプリング・ライオン | SPRING Ryan
言語・文化教育センター 准教授

言語・文化教育センター

言語・文化センターは、全学教育の外国語授業(英語、留学生の日本語、または初修外国語—フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語)を担当し、それに関わる研究を行っています。私は英語教育の担当であり、授業を持ちつつ本学の共通英語教材である「Pathways to Academic English」の作成などに協力しています。言語・文化教育センターには優れた教育・研究業績を持つ優秀な教員が多く、とても良い同僚に恵まれています。多くの教員が協力し合い、共同研究などを実施したり、根拠に基づいた教育を実践したりすることで、「改善」のスピリッツでより良い外国語教育を目指しています。将来はセンターがより学生の外国語運営力を高め、自分の研究やキャリアに使えるスキルとなるような継続的な外国語教育を実践していきたいと思っています。最新のテクノロジーや教育方法を少しずつ授業に取り入れ、今の時代に合ったより良い授業を作っていきたいと考えています。

最新のテクノロジーを取り入れ
時代に合わせた外国語授業へ



vision

3

アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を確保するための 持続可能な新たなアドミッションの構築

入学者等の実績や各種入試動向調査などのエビデンスを踏まえ、本学のアドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を国内外から広く確保するための入試制度の研究・開発・実施と入試広報および高大接続活動を強化します。そのために、以下の取り組みを行います。

- ① 本学のビジョンに対応したアドミッション・ポリシーの策定
- ② 学部・大学院における志願者拡大に向けた国内外の戦略的マーケティングと入試広報の実施
- ③ 多様な学生を広く国内外から確保するための入試制度の開発
- ④ 学部・大学院入試における課題解決支援及び入試業務における教員の負担軽減策の立案・実施
- ⑤ 各教育委員会と連携した高大接続事業の継続的な実施
- ⑥ アドミッションの学術的基盤の確立と大学院教育と連携した指導的アドミッション・オフィサーの養成



全国21都市で開催される本学主催入試説明会(対象:高校教員)

2019年度オープンキャンパスの様子(参加者68,403人)



▼ vision3を担うセンター

宮本 友弘 | MIYAMOTO Tomohiro
入試センター 教授

入試センター

入試センターでは、①入試の企画・実施と各部署への支援、②入試広報および高大連携の企画・実施、③入試に関する研究開発、と大きく3つの業務に取り組んでいます。私は主に、入試の企画・実施、各学部・学科等のAO入試に関するデータ分析とFDの実施と、入試広報活動(本学主催の説明会、高校訪問、オープンキャンパスなど)の企画と実施、入試をテーマにした高等教育フォーラムの企画と運営、さらに本学入試の改善のための研究(志願者動向調査や追跡調査、新入生調査、高校教員調査など)を担当しています。少子化が進む中、本学のアドミッション・ポリシーに合致した学生を確保するためには、入試センターの機能を一層強化する必要があります。特に、国内外の高校生からみて魅力的であり、持続可能な入試制度や方法の研究開発と、それらの戦略的な広報を推進していくことになるでしょう。また、アドミッションの学問的基盤として「大学入試学」の確立と、大学院教育と連携した指導的なアドミッション・オフィサーの養成にも取り組んでいきたいと考えています。本学の入試センターでは、入試に関する実務だけでなく、そのベースとなる研究も行っており、その成果(エビデンス)が、本学の入試に関する意志決定や制度設計に活かされています。特に、「受験生保護の大原則」のもと調査や広報活動を通して、高校生、保護者、高校教員からの生の「声」を真摯に受け止めています。

大学入試学の研究拠点としても
全国に先駆けた取り組みを実践



本年度の受験生向けの「進学説明会・相談会」と、高校教員向けの「入試説明会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施します。



vision

4

21世紀の知識集約型社会に対応した大学教育開発の推進と教育・学習マネジメントの強化支援

21世紀の知識集約型社会に対応し得る大学教育への再構築を目指し、大学教育の内容・方法の研究開発、教職員能力開発の企画・実施、教育・学習マネジメントの強化を通して、本学における全学的な大学教育改革・改善の推進に貢献し、我が国の大学教育をリードする世界水準の拠点としての地位を確立します。そのために、以下の事業に取り組みます。

- ① 国際連携を基盤にした、高等教育の動向・政策・実践に関する研究開発の推進と国内外への成果発信・還元
- ② 教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営等について大学執行部や教職員に求められる各種能力を育成する専門性開発プログラムと動画コンテンツの開発・提供
- ③ 産学共同人材育成システムの開発・運営による実務家教員の育成・輩出
- ④ 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データの収集・分析・提供を通じた本学の教育・学習マネジメントの強化支援

2018年8月28日開催 大学の授業を設計する:授業デザインとシラバス作成



2019年10月31日開催【大学教育イノベーション日本 (HEIJ)】第4回大学教育イノベーションフォーラム「世界で一番とんがった大学から、大学教育の当たり前を問い直す—ミネルバ大学が示唆するもの—」

▼ vision4を担う2つのセンター

大森 不二雄 | OHMORI Fujio
大学教育支援センター センター長 教授

大学教育支援センター

本機構は、文科省により「教育関係共同利用拠点」として認定されており、大学教育支援センターは、この事業を担うセンターとして、教員準備・新任教員向けやリーダー育成をはじめとした、全国の大学教職員の能力開発 (FD・SD) のためのさまざまな研修プログラムを実施しています。FD・SDプログラムは、国際連携を活用して海外の最先端プログラムを導入し、日本の実態に適合するよう独自に開発したものです。全国の大学から参加者を得て、満足度・学習到達度で高い評価を得るとともに、参加後の行動変容度・組織変容度についても効果を確認するなど、大きな成果を確保しています。こうした成果は、文科省にも高く評価されているところであり、我が国の高等教育の質の向上に大きく貢献しています。センターの全国的な存在感は、創造と変革を先導する人材の育成や大学教育のイノベーションをめざす本学と、その中核を担う本機構にとって大きな財産となっています。

日本の高等教育の質的向上を目指す
インターフェースとしての役割



串本 剛 | KUSHIMOTO Takeshi
教育評価分析センター 副センター長 准教授

教育評価分析センター

教育評価分析センター (CIR) は本学における「教学IR」、つまり、教育・学習に関する体系的なデータの収集・分析を行い、その成果を提供することで、全学・部局の意思決定支援を行う組織です。CIRの特徴の一つは、4名の構成員のうち3名が高等教育研究者であり、それぞれに行う研究の知見を応用しながら、教学IR業務に当たっていることです。今日では全国の多くの大学にIR組織が設置されていますが、構成員に複数の研究者、しかも高等教育研究に従事している者がいる例は稀です。CIRではその強みを生かし、少なくとも年に一回、学務審議会との連携のもとで教育に関わる調査を行い、結果を全学に周知すると共に、専門的な分析を行い、全学ないし各部局の意思決定を支援しています。今後はさらに、学生の成績や進路などを加えた統合的分析を進め、本学における内部質保証の一翼を担う組織へと発展することを目指しています。

高等教育研究者が従事するIR活動により
全学・各部局の教学マネジメントを支援



vision

5

多様性を尊重し自己・社会の未来構想に挑戦する 主体的学生を育成する包括的学生支援の推進

変化に富んだ社会に対応し多様な文化や価値観を受け入れ、自己や社会の未来構想に意欲的に挑戦する心身ともに豊かな個人へと成長する機会を促す包括的な学生支援を推進します。
そのために、以下の取り組みを全学連携的な支援体制を構築して行います。

- ① 学生の心身発達の支援と対峙する危機への介入（健康管理、メンタルヘルスケア、学生相談、ハラスメント防止）
- ② グローバルな視点からの感染管理
- ③ 多様な背景を持つ学生への支援とインクルーシブな環境の提供（障害のある学生、留学生等への支援）
- ④ 自己を見つめ未来を主体的に切り拓くキャリア形成の支援
- ⑤ 学生の自発的な課外活動や東日本大震災の経験を活かし未来社会の構想に挑戦するボランティア活動の支援



2020年2月8日 課題解決型演習における福島県双葉郡川内村の住民さんとの交流ボランティア活動

▼ vision5を担う4つのセンター



猪股 歳之 | INOMATA Toshiyuki
キャリア支援センター 副センター長 准教授

キャリア支援センター

キャリア支援センターでは、学部1年生から博士後期課程の学生やポスドクまでを対象として、正課教育と正課外の支援とをともに重視しながら活動しています。キャリアとは人生や生き方などの意味も含んだ言葉です。そしてキャリア教育・支援は、学生の専門分野や学年、個人の状況などによっても必要とされる内容や方法が異なるため、センターで行っている事業は多岐にわたり、個別の相談にも数多く対応しています。就職や雇用のあり方は変化し続けていますが、進路選択を控えた学生の不安を軽減し、必要となる知識・情報を的確に伝えていくことは私たちの重要な使命のひとつです。また近年では、インターンシップやPBLなどを通して実践的に学ぶ機会を拡大するため、社会と連携した教育の強化を進めています。さらに、海外留学をする学生や博士後期課程を含む大学院進学者に対するサポートの充実、外国人留学生に対するキャリア支援の開発や実施なども重要な課題として位置づけています。

キャリアとは人生や生き方でもある
目標に向かい行動する学生を支援

北 浩樹 | KITA Hiroki
保健管理センター 助教

保健管理センター

保健管理センターは学生の健康の保持増進を図ることを目的とし、保健にまつわる一連の業務、すなわち疾病予防や早期発見を目指した健康管理業務や健康科学の進歩を目指した研究と教育を実践しています。具体的には、定期健康診断をはじめとした各種健康診断、内科・外科・メンタルヘルス・歯科の健康相談や診療、管理栄養士による食事相談、さらに講義として全学教育「体と健康」などを行っています。近年の大学を取り巻く健康と学生支援上の変化として、留学生の増加、感染症のパンデミック、障がいをもつ学生への合理的配慮義務などがあります。そのため、留学生の健康診断体制の充実（特に入学時の結核検診）、新型インフルエンザやSARS、新型コロナウイルス等のような感染症の世界的流行時の保健管理センターとしての体制の確立・情報提供、障がいをもつ学生への合理的配慮について学生相談・特別支援センターとの連携強化など、取り組みの改変・充実を図っています。

留学生の増加、感染症の世界的流行など
国際化によって保健対応にも変化



小島 奈々恵 | KOJIMA Nanae
学生相談・特別支援センター 講師

学生相談・特別支援センター

学生相談・特別支援センターでは、学生のこころ豊かな学生生活をサポートしています。具体的には、学業、将来の進路、人間関係、性格、こころの健康など、あらゆることに関して臨床心理士が学生の相談に応じています。特別支援室では、障害のある、もしくは疑いのある学生・家族・教職員の相談に応じます。私は、学生が抱えるさまざまな困りごとについてカウンセリングしていますが、その内容は多岐にわたるため、必要に応じて指導教員や医師、家族と連携しています。特に留学生との関わりが多いのですが、彼らの留学体験が安全で、有意義なものになるよう努めています。センターの来談者数・相談回数は全国的にも多く、これは困りごとを抱える学生の多さと捉えることもできる一方、スタッフが丁寧に相談や支援していると捉えることもできるでしょう。丁寧な相談や支援を継続するとともに、学生や教職員を対象とした講演などの予防活動の幅も広げていきたいと思っています。

学生の困りごとを丁寧に聴き取り
こころ豊かな学生生活をサポート

横関 理恵 | YOKOZEKI Rie
課外・ボランティア活動支援センター 特任助教

課外・ボランティア活動支援センター

東日本大震災以降、多くの学生が復興支援ボランティアに参加し、現在でもその活動は継続しています。また、復興支援以外にも日常的なボランティア活動も盛んに行われており、本センターでは、学生がこれらの活動へ参加することで社会性を身につけ、主体的な問題解決能力を培う力を養うと考え、総合的に支援しています。具体的には、広報活動や被災地ツアーの企画・実施、体験プログラムの開発、また、学生スタッフのための研修会などを開催しています。さらに、国内外の大学との交流・連携の機会提供、高大連携における被災地視察なども実施しています。当センターは、社会が抱えるさまざまな課題を発見し、課外・ボランティア活動に自主的に取り組む学生たちを支援するという重要な役割を担っています。学生はこれらの活動を通して、市民性を培い、人権感覚を身につけ、人間的成長を遂げています。学生の成長を見守りながら、一人ひとりをエンパワメントする学生支援に挑戦し続けています。

社会的課題に気づき主体的に活動する
学生の人間的成長を支援



	職名	氏名	専門分野
機構長	東北大学理事・副学長	滝澤 博胤	機能無機材料化学
副機構長	教授	伊藤 千裕	精神科
副機構長	東北大学副学長/理学研究科教授	山口 昌弘	素粒子・宇宙理論

業務センター

教育評価分析センター	センター長/教授	杉本 和弘	比較教育学
	副センター長/准教授	串本 剛	高等教育論
	講師	松河 秀哉	教育工学

大学教育支援センター	センター長/教授	大森 不二雄	教育社会学
	副センター長/准教授	戸村 理	高等教育論
	(兼務)教授	杉本 和弘(教育評価分析センター)	比較教育学
	特任助教	赤池 美紀	比較教育学

入試センター	センター長/副理事/理学研究科教授	長濱 裕幸	固体地球惑星物理学
	副センター長/教授	倉元 直樹	教育心理学
	教授	宮本 友弘	教育心理学
	特任教授	石上 正敏	理科教育
	特任教授	庄司 強	数学教育
	特任教授	樫田 豪利	理科教育
	特任教授	秦野 進一	英語教育
	特任教授	末永 仁	理科教育
	特任教授	伊藤 博美	国語教育
	准教授	久保 沙織	心理統計学
	助教	南 紅玉	教育学

言語・文化教育センター	センター長/副機構長/副学長/理学研究科教授	山口 昌弘	素粒子・宇宙理論
	副センター長/教授	北原 良夫	英語学
	副センター長/教授	菅谷 奈津恵	日本語教育
	教授	吉本 啓	言語認知科学
	教授	上原 聡	認知言語学
	教授	橘 由加	英語教育
	(兼務)教授	岡田 毅(大学院国際文化研究科)	(外国語としての)英語教育
	特任教授	佐藤 勢紀子	日本思想史学
	准教授	竹林 修一	アメリカ研究
	准教授	桜井 静	第二言語習得
	准教授	SCURA Vincent	第二言語習得 (SLA)
	准教授	SPRING Ryan	第二言語習得
	准教授	MERES Richard	コミュニケーション・英語学
	准教授	KAVANAGH Barry	社会言語学
	准教授	カン ミンギョン	ドイツ語学
	准教授	深井 陽介	フランス文学
	准教授	田林 洋一	スペイン語学
	准教授	SILVA Cecilia	Foreign Language Education (Spanish)
	准教授	趙 秀敏	中国語教育
	准教授	副島 健作	言語学
	准教授	中村 涉	言語類型論
	准教授	林 雅子	対照言語学
	准教授	金 鉉哲	韓国公演芸術論
	講師	EICHHORST Daniel	TEFL
	講師	ENSLEN Todd	英語学
	講師	SHEARON Ben	TEFL
	講師	STAVOY Joseph	英語学
	講師	三上 傑	言語学
	講師	SCHACHT Bernd	Foreign Language Education (German)
	講師	ENDO Susanne	北方史
	講師	高橋 美穂	ドイツ語学
	講師	SAUZEDDE Bertrand	音声学
	講師	張 立波	中国語教育
	講師	王 其莉	日中対照言語学
グローバルラーニングセンター	センター長/副機構長/副学長/理学研究科教授	山口 昌弘	素粒子・宇宙理論
	副センター長/教授	粕壁 善隆	粒子線材料工学
	副センター長/総長特別補佐/教授	末松 和子	異文化間教育学
	特任教授	渡邊 由美子	地球化学
	特任教授	SCHROEDER Marcin	情報システム
	准教授	高橋 美能	社会教育学
	准教授	渡部 留美	異文化間教育
	准教授	渡部 由紀	比較・国際教育学
	准教授	ZHANPEISOV Nurbosyn	理論化学

学際融合教育推進センター	准教授	ROBERT Martin	生命科学
	准教授	小池 武志	物理学
	准教授	DAHAN Xavier	計算機代数
	准教授	米澤 由香子	高等教育
	特任准教授	坂本 友香	国際教育
	特任准教授(客員)	佐藤 玲子(カリフォルニア大学リバーサイド校)	日本語教授法
	(兼務)特任准教授	三隅 多恵子(国際連携推進機構)	国際連携
	講師	新見 有紀子	異文化間教育
	特任助教	林 聖太	英語教育学

	センター長/教授	中村 教博	地質学
	副センター長/准教授	中川 学	日本近世史
	副センター長/准教授	山内 保典	認知心理学
	総長特命教授	宮岡 礼子(教養教育院)	微分幾何学
	総長特命教授	米倉 等(教養教育院)	開発経済学
	総長特命教授	鈴木 岩弓(教養教育院)	宗教民俗学
	総長特命教授	水野 健作(教養教育院)	分子細胞生物学
	総長特命教授	高木 泉(教養教育院)	数学(数理生物学)
	教授	関根 勉	放射化学
	総長特別補佐/教授	芳賀 満	ユーラシア大陸考古学
	准教授	田嶋 玄一	動物生理学
	准教授	藤本 敏彦	運動生理学
	助教	高橋 禎雄	日本思想史
	助教	太田 宏	動物生態学
	助教	小俣 乾二	有機化学
	助教	冨田 知志	メタマテリアル
	助教	前山 俊彦	物理化学
	助教	山下 琢磨	原子分子物理学
	助教	本多 良太郎	ストレンジネス核物理
	助教	鈴木 紀穀	微生物学
	助教	渡邊 文枝	教育工学

学習支援センター	センター長/総長特別補佐/教授	芳賀 満	ユーラシア大陸考古学
	副センター長/准教授	佐藤 智子	社会教育・生涯学習論
	助教	縣 拓充	教育心理学

キャリア支援センター	センター長/経済学研究科教授	中島 啓貴	幾何学
	副センター長/理学研究科教授	秋田 次郎	国際金融論
	副センター長/准教授	松澤 暢	地震学
	特任教授(客員)	猪股 歳之	教育社会学
	特任教授(客員)	工藤 成史	生物物理
	特任教授(客員)	増沢 隆太	キャリア開発
	特任教授(客員)	北上 修	電子材料
	准教授	高橋 修	人的資源管理論
	特任准教授	門間 由記子	人材育成
	特任准教授	冨田 京子	キャリア支援

学生相談・特別支援センター	センター長/総長特別補佐/歯学研究科教授	菅原 俊二	口腔免疫学
	副センター長/教授	池田 忠義	臨床心理学
	准教授	中島 正雄	臨床心理学
	講師	小島 奈々恵	臨床心理学
	講師	中岡 千幸	臨床心理学
	講師	長友 周悟	障害学生支援
	特任講師	榊原 佐和子	臨床心理学
	助教	松川 春樹	臨床心理学
	助手	佐藤 静香	臨床心理学
	助手	高橋 真理	特別支援教育

保健管理センター	センター長/教授	木内 喜孝	内科・消化器病学
	副機構長/副センター長/教授	伊藤 千裕	精神科
	准教授	小川 晋	内科・糖尿病学
	准教授	佐藤 公雄	内科・循環器病学
	助教	北 浩樹	歯科・健康情報学
	助教	山本 沙織	内科・循環器病学
	助教	二宮 匡史	内科・消化器内科学
	助教	藤尾 淳	肝胆膵移植外科
	助教	川口 桂	外科学
	助教	穴倉 裕	呼吸器内科学分野

課外・ボランティア活動支援センター	センター長/総長特別補佐/経済学研究科教授	小田中 直樹	フランス社会経済史
	副センター長/データ・AIセンター教授	早川 美徳	データ情報学
	特任助教	横関 理恵	教育学
	特任助教	松原 久	地域社会学